

2021年3月16日

株式会社リクルート住まいカンパニー

2020年首都圏新築マンション契約者動向調査

～平均購入価格は5,538万円で、2001年調査開始以来、過去最高に
広い家や居住空間のゆとりへの希望が、2019年よりやや強まる～

株式会社リクルート住まいカンパニー(本社：東京都港区 代表取締役社長：浅野健)では、新築分譲マンション市場の実態をつかむために、首都圏の新築分譲マンション契約者を対象とした調査を2001年より毎年実施しております。この度、2020年に契約された方の動向を取りまとめました。時系列比較をしながら、概要をご報告いたします。

調査トピックス

1. 世帯主の平均年齢は37.7歳で、2019年よりやや低下 (P3)
 - ▶ 2019年より、夫婦のみ世帯・シングル世帯がやや増加 (P4)
2. 既婚世帯の共働き比率は、2001年調査開始以来最高の72% (P5)
3. 世帯総年収は全体平均で985万円で、2019年とほぼ同じ (P6)
 - ▶ 総年収1,000万円以上の既婚共働き世帯が、全体の27% (P7)
4. 東京23区の購入割合は39%で、2019年とほぼ同じ (P8)
 - ▶ 2019年に比べ、東京23区、神奈川県、埼玉県の居住者で、他エリアでの購入(流出)が増加 (P9)
5. 2001年調査開始以来、平均購入価格は5,538万円で最も高く、平均専有面積は67.3㎡で最も小さく (P10,11)
6. 自己資金比率平均17.9%、2001年調査開始以来最も低い (P13)
 - ▶ ローン借入総額は平均4,864万円、2005年以降で最も高い (P14)
 - ▶ 世帯主と配偶者のペアローンが、全体で約3割、既婚・共働き世帯では約5割 (P15)
7. 「もっと広い家に住みたかった」という購入理由が、2019年よりやや増加 (P16)
 - ▶ 居住空間のゆとりを求めた割合が、2019年よりやや増加 (P17)
 - ▶ 2020年4-6月以降の契約者は、20年1-3月と比べて、広い家・居住空間のゆとりなどへの希望がやや強く、通勤利便への希望はやや弱い (P18)
 - ▶ 間取りプラン、住戸の設備・仕様や部屋数、生活環境の重視度が、2019年よりやや上昇 (P19)
8. 中古マンションとの並行検討者は全体の52% 2003年以降で初めて半数を超える (P20)

リクルート住まいカンパニーはこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここいない、出会い。」を届けていきます

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルート住まいカンパニー 経営管理室 カンパニー・コミュニケーショングループ
メール: sumai_press@r.recruit.co.jp 電話: 03-6835-5290

目次

1. 契約世帯主の属性 年齢	3
2. 契約世帯主の属性 ライフステージ	4
3. 契約世帯主の属性 共働き比率	5
4. 契約世帯主の属性 世帯総年収	6
5. 契約世帯主の属性 共働き世帯の年収詳細	7
6. 購入物件所在地	8
7. 購入物件所在地 契約前住所別推移	9
8. 購入価格	10
9. 専有面積	11
10. 購入価格と専有面積（購入エリア別）	12
11. 自己資金比率	13
12. ローン借入額	14
13. ローン契約形態	15
14. 住まいの購入理由	16
15. 暮らし方のイメージ	17
参考. コロナ禍緊急事態宣言以降の購入意識と検討行動（2020年・四半期別分析）	18
16. 重視項目	19
17. 検討住宅種別	20

調査概要

- **調査目的** 首都圏新築分譲マンション契約者の購入物件・購入行動・購入意識など購入動向を把握する

- **調査対象**

- ▽ 2020年1月～2020年12月の首都圏(東京都・神奈川県・埼玉県・千葉県)新築分譲マンション購入契約者
 - ※ 2020年1月～2020年12月の契約者の確認方法…回答票に契約書等（契約日・物件所在地が確認できる書類）コピーの添付を依頼（調査協力依頼①③の方のみ）

- **調査方法**

- ▽ 協力依頼
 - ①首都圏各種メディアを通して調査対象者へ協力依頼
 - ↳ 電車内広告/SUUMO新築マンション/SUUMO(Web)/都心に住む/スーモカウンター/インターネット広告
 - ②マンション分譲会社での契約会などを通して調査対象者へ協力依頼
 - ③調査対象の入居済み新築マンションに、協力依頼書と調査票を投函

- ▽ 調査方法 ①はWeb調査 ②③はWeb調査と郵送調査の併用

- **集計対象期間** 2020年1月～2020年12月

- **集計数** 計5,139件

- ▽ 経年のデータについて…年によって調査方法や対象の物件種別は異なるが、各年とも新築マンション契約者のサンプルのみで集計している。また、基本的には調査開始以降全てのデータを掲載しているが、途中から調査するようになった設問もあるため、経年データの開始年は設問によって異なる。
- ▽ 2003年～2006年は、全住宅購入契約者を対象とした調査(項目は全物件種別共通)を一次調査、新築マンション契約者のみを対象とした調査を二次調査として実施。2007年からは一次・二次をまとめ、一括で実施。2009年4月からは調査対象を新築マンション契約者のみに限定して、調査を実施している。

調査	有効サンプル数	調査発表	調査	有効サンプル数	調査発表
2019年契約者	4,931件	2020年3月	2009年契約者	3,022件	2010年3月
2018年契約者	3,760件	2019年3月	2008年契約者	2,431件	2009年4月
2017年契約者	4,768件	2018年3月	2007年契約者	2,847件	2008年4月
2016年契約者	4,294件	2017年3月	2006年契約者	3,536件（うち二次調査：2,793件）	2007年3月
2015年契約者	4,065件	2016年3月	2005年契約者	2,439件（うち二次調査：1,726件）	2006年4月
2014年契約者	3,347件	2015年3月	2004年契約者	3,743件（うち二次調査：2,501件）	2005年6月
2013年契約者	5,518件	2014年3月	2003年契約者	4,616件（うち二次調査：3,189件）	2004年5月
2012年契約者	4,384件	2013年3月	2002年契約者	5,873件	2003年6月
2011年契約者	3,746件	2012年3月	2001年契約者	6,919件	2002年4月
2010年契約者	4,035件	2011年3月			

※調査データを引用する際は、「2020年首都圏新築マンション契約者動向調査(株式会社リクルート住まいカンパニー)」と明記をお願いいたします。

1. 契約世帯主の属性 年齢

● 世帯主の平均年齢は37.7歳で、2019年よりやや低下

- ◇ ライフステージ別にみると、夫婦のみ世帯の平均年齢が最も低く、33.6歳である。
- ◇ 既婚世帯を共働き状況別にみると、共働きをしている方が平均年齢は低く、35.3歳である。

■ 契約時世帯主年齢(全体/実数回答)

		20代	30～34歳	35～39歳	40代	50代	60歳以上	無回答	平均(歳)
● 凡例									
2020年契約者全体 (n=5139)									
		16.3	29.6	22.7	19.7	6.6	4.5	0.6	37.7
2019年契約者全体 (n=4931)		15.1	29.3	23.0	19.0	7.4	5.5	0.6	38.2
2018年契約者全体 (n=3760)		13.1	30.9	22.7	19.8	8.1	4.7	0.7	38.3
2017年契約者全体 (n=4768)		12.1	30.8	23.6	19.8	7.5	5.7	0.4	38.6
2016年契約者全体 (n=4294)		12.8	30.7	21.9	22.8	7.1	4.3	0.4	38.2
2015年契約者全体 (n=4065)		12.6	28.8	22.1	21.4	9.0	5.8	0.3	39.0
2014年契約者全体 (n=3347)		12.5	29.6	25.0	22.2	7.9	2.5	0.2	37.8
2013年契約者全体 (n=5518)		12.4	28.9	24.1	22.8	7.1	4.4	0.3	38.3
2012年契約者全体 (n=4384)		15.1	30.5	23.7	20.7	6.7	3.0	0.3	37.4
2011年契約者全体 (n=3746)		14.0	31.0	25.1	20.2	6.0	3.4	0.4	37.3
2010年契約者全体 (n=4035)		16.6	33.1	24.0	19.7	4.9	1.5	0.2	36.2
2009年契約者全体 (n=3022)		17.8	36.5	23.8	16.8	3.8	1.1	0.2	35.4
2008年契約者全体 (n=2431)		17.6	37.0	22.5	16.9	4.2	1.6	0.2	35.6
2007年契約者全体 (n=2847)		18.7	33.9	23.5	16.9	5.0	1.7	0.4	35.9
2006年契約者全体 (n=3536)		17.8	35.2	24.3	16.1	4.7	1.7	0.2	35.7
2005年契約者全体 (n=2439)		17.9	34.5	21.7	19.2	4.9	1.5	0.2	36.0
2004年契約者全体 (n=3743)		17.5	34.1	23.7	17.9	4.9	1.9	0.2	36.0
2003年契約者全体 (n=4616)		16.3	32.5	24.2	18.8	5.8	2.3	0.2	36.6
2002年契約者全体 (n=5873)		15.4	31.4	24.3	19.0	6.9	2.8	0.2	37.1
2001年契約者全体 (n=6919)		15.8	30.5	24.6	19.1	6.9	2.8	0.3	37.1
ライフ ステージ 別	シングル男性世帯 (n= 299)	24.7	16.7	17.4	27.4	8.4	5.0	0.3	38.5
	シングル女性世帯 (n= 443)	8.6	20.5	23.9	31.8	8.8	5.9	0.5	40.7
	夫婦のみ世帯 (n=1829)	26.2	35.9	22.0	15.7	—	—	0.2	33.6
	子供あり世帯 (n=1987)	10.1	33.5	27.8	21.3	5.2	2.0	0.1	37.1
	シニアカップル世帯 (n= 252)	—	53.2	46.8	—	—	—	—	60.4
共働き 状況別	既婚・共働きしている (n=2932)	20.1	36.3	22.9	14.9	4.2	1.6	0.1	35.3
	世帯総年収1000万円以上 (n=1300)	17.9	36.8	24.4	15.8	4.2	0.8	0.1	35.2
	世帯総年収1000万円未満 (n=1187)	25.4	38.0	22.5	11.7	1.8	0.6	0.1	33.8
	既婚・共働きしていない (n=1136)	8.0	22.7	25.0	24.1	10.0	9.9	0.3	41.4
【参考】 2020年新築一戸建て契約者全体 (n=3345)		18.4	29.1	23.1	21.9	5.5	1.7	0.4	36.5

(単位: %)

※ライフステージ別の区分についてはp4参照。共働き状況別についてはp5参照。

※新築一戸建て契約者のデータは、「2020年首都圏新築分譲一戸建て契約者動向調査(株式会社リクルート住まいカンパニー)」より引用。以下、同じ。

1-01-01-1

2. 契約世帯主の属性 ライフステージ

● 2019年より、夫婦のみ世帯・シングル世帯がやや増加

◇ ライフステージは「子供あり世帯計」が39%で、2019年より約5ポイント減少、「夫婦のみ世帯」（36%）、「シングル世帯計」（14%）がやや増加した。

■ ライフステージ(全体/単一回答)

		シングル世帯		夫婦のみ世帯	子供あり世帯		シニアカップル世帯	その他・不明	シングル世帯計		子供あり世帯計	
		シングル男性世帯	シングル女性世帯		第一子小学校入学前 世帯	第一子小学生以上 世帯						
●凡例												
2020年契約者全体 (n=5139)		5.8	8.6	35.6		29.7		9.0	4.9	6.4	14.4	38.7
2019年契約者全体 (n=4931)		5.6	6.5	33.4		32.6		10.7	5.2	6.0	12.1	43.3
2018年契約者全体 (n=3760)		5.0	6.1	32.4		34.1		10.5	5.7	6.1	11.1	44.7
2017年契約者全体 (n=4768)		5.2	4.8	32.4		34.4		11.0	5.8	6.4	9.9	45.4
2016年契約者全体 (n=4294)		5.2	5.8	32.7		33.9		11.6	4.6	6.3	11.0	45.5
2015年契約者全体 (n=4065)		5.5	4.8	32.3		33.4		11.4	6.1	6.4	10.3	44.8
2014年契約者全体 (n=3347)		5.2	4.6	34.7		34.9		11.5	4.4	4.6	9.8	46.4
2013年契約者全体 (n=5518)		6.0	5.4	33.8		32.6		12.7	4.3	5.3	11.4	45.3
2012年契約者全体 (n=4384)		6.2	5.7	35.2		31.9		11.5	3.6	5.9	11.9	43.4
2011年契約者全体 (n=3746)		6.0	6.1	36.2		30.4		11.6	3.5	6.3	12.0	41.9
2010年契約者全体 (n=4035)		7.1	5.7	41.1		28.6		9.6	2.1	5.9	12.8	38.1
2009年契約者全体 (n=3022)		7.7	5.1	40.3		30.5		9.6	1.3	5.6	12.8	40.1
2008年契約者全体 (n=2431)		7.7	4.6	35.0		33.8		11.6	1.6	5.6	12.3	45.4
2007年契約者全体 (n=2847)		6.1	4.8	35.1		33.5		13.1	2.0	5.4	11.0	46.6
2006年契約者全体 (n=3536)		6.7	5.1	36.8		30.5		12.3	1.7	6.8	11.8	42.8
2005年契約者全体 (n=2439)		6.2	6.6	34.7		31.0		13.0	1.5	7.1	12.7	44.0
2004年契約者全体 (n=3743)		7.2	7.7	34.3		28.6		14.3	1.9	6.1	14.9	42.9
2003年契約者全体 (n=4616)		7.1	7.1	33.0		28.9		16.1	2.5	5.3	14.2	45.1
2002年契約者全体 (n=5873)		6.4	6.4	32.6		28.1		18.7	2.9	5.0	12.8	46.8
2001年契約者全体 (n=6919)		6.2	6.5	31.5		27.9		19.7	3.2	5.1	12.7	47.6
共働き 状況別	既婚・共働きしている (n=2932)	—	—	53.7		35.2		7.5	3.6	—	—	42.7
	世帯総年収1000万円以上 (n=1300)	—	—	53.8		36.5		6.5	3.2	—	—	43.0
	世帯総年収1000万円未満 (n=1187)	—	—	57.5		35.4		5.8	1.3	—	—	41.2
既婚・共働きしていない (n=1136)		—	22.4	43.6		21.1		12.9	—	—	—	64.7
【参考】	2020年新築一戸建て契約者全体 (n=3345)	2.9	1.5	26.0		42.9		20.3	2.2	4.3	4.4	63.1

（単位：％）

(単位: %)

※「シニアカップル世帯」は、世帯主年齢が50歳以上の夫婦のみ世帯。

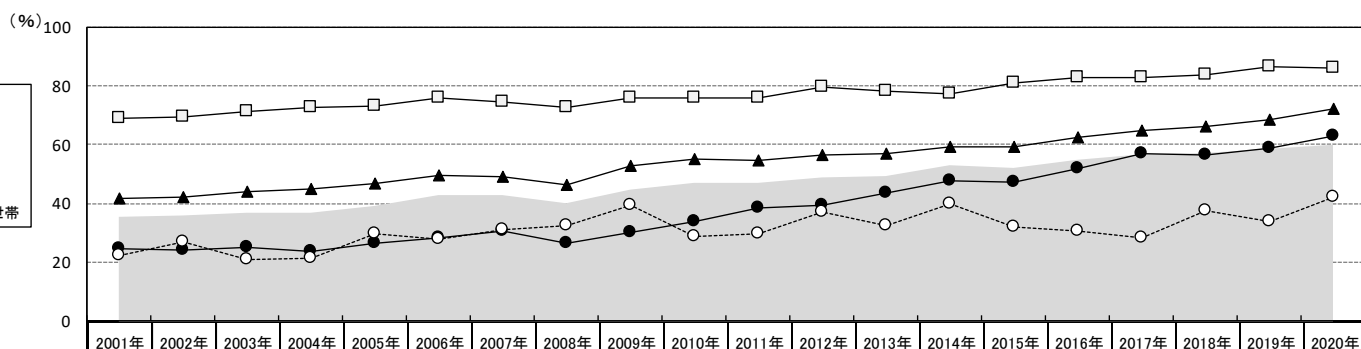
1-01-02-1

3. 契約世帯主の属性 共働き比率

● 既婚世帯の共働き比率は、2001年調査開始以来最高の72%

- ◇ 全体に占める共働き世帯の割合は60%。既婚世帯では72%で、2001年の調査開始以来、上下を繰り返しながら上昇、これまでで最も高くなった。
- ◇ さらに詳しくみると、夫婦のみ世帯では86%、子供あり世帯では63%、シニアカップル世帯では42%である。

■ 共働き比率(全体／単一回答)



		35.4	36.1	36.8	37.1	39.4	42.7	42.7	39.9	44.6	47.1	47.0	48.8	49.5	53.2	52.1	54.7	56.8	57.3	58.6	59.9
ステ ー ジ 別	既婚世帯計※	41.5	42.2	44.0	44.9	46.8	49.8	49.1	46.3	52.9	55.2	54.6	56.6	57.0	59.5	59.4	62.7	64.9	66.0	68.3	72.1
	夫婦のみ世帯	68.9	69.3	71.5	72.5	73.1	75.8	74.6	72.7	75.7	76.1	76.0	79.8	78.2	77.5	81.1	82.6	82.6	83.8	86.3	86.1
	子供あり世帯	24.7	24.3	25.1	23.8	26.6	28.3	30.7	26.4	30.4	34.0	38.3	39.4	43.6	47.9	47.4	51.7	56.9	56.6	58.6	63.0
	第一子小学校入学前世帯	20.0	18.5	19.4	18.3	22.8	25.0	26.4	24.5	29.2	32.7	37.6	39.7	45.6	48.8	49.1	54.6	61.9	60.2	62.8	67.6
	第一子小学生以上世帯	31.2	32.9	35.4	34.8	35.5	36.4	41.6	32.2	34.3	38.1	40.2	38.6	38.3	45.3	42.7	43.3	41.1	45.1	45.9	47.8
	シニアカップル世帯	22.5	26.8	20.9	21.4	29.7	27.9	31.0	32.5	39.5	28.9	29.5	37.1	32.3	39.7	32.0	30.7	28.5	37.7	34.0	42.1
	【参考】新築一戸建て契約者全体	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	50.4	50.9	54.8	54.8	58.7	57.8
【参考】新築一戸建て既婚世帯計※		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	51.8	52.5	56.6	56.4	60.7	60.5	64.9

50.0 …前年より5ポイント以上増加
50.0 …前年より5ポイント以上減少

(単位: %)

		2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
【参考】調査数		6,919	5,873	4,616	3,743	2,439	3,536	2,847	2,431	3,022	4,035	3,746	4,384	5,518	3,347	4,065	4,294	4,768	3,760	4,931	5,139
契約者全体		5,692	4,829	3,717	2,957	1,957	2,876	2,382	1,995	2,468	3,282	3,059	3,606	4,598	2,863	3,383	3,553	3,987	3,112	4,037	4,068
ステ ー ラ イ ジ ン グ	既婚世帯計※	2,177	1,915	1,522	1,282	847	1,301	998	851	1,219	1,660	1,357	1,545	1,864	1,163	1,313	1,402	1,547	1,218	1,646	1,829
	夫婦のみ世帯	3,293	2,746	2,080	1,605	1,073	1,514	1,326	1,104	1,211	1,539	1,570	1,902	2,499	1,554	1,823	1,952	2,163	1,679	2,135	1,987
	子供あり世帯	1,928	1,648	1,335	1,071	755	1,080	953	821	922	1,153	1,137	1,397	1,800	1,168	1,359	1,455	1,638	1,284	1,606	1,527
	第一子小学校入学前世帯	1,365	1,098	745	534	318	434	373	283	289	386	433	505	699	386	464	497	525	395	529	460
	第一子小学生以上世帯	222	168	115	70	37	61	58	40	38	83	132	159	235	146	247	199	277	215	256	252
	シニアカップル世帯																				
【参考】新築一戸建て契約者全体		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	2,140	2,762	2,935	1,972	1,443	1,913	3,345
【参考】新築一戸建て既婚世帯計※		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1,951	2,554	2,698	1,813	1,347	1,787	3,053

(単位: 人)

1-01-10-1

※共働き比率…雇用形態の設定に対し、世帯主・配偶者ともに下記①～⑥のいずれかに該当する者を「共働き」とした。

①正社員 ②契約社員 ③公務員・団体職員 ④自営業 ⑤医師・弁護士・税理士・会計士等 ⑥アルバイト・パート ⑦主婦 ⑧学生 ⑨無職 ⑩その他

※既婚世帯計…ライフステージの「シングル世帯」と「その他・不明」を除いたサンプルの合計。

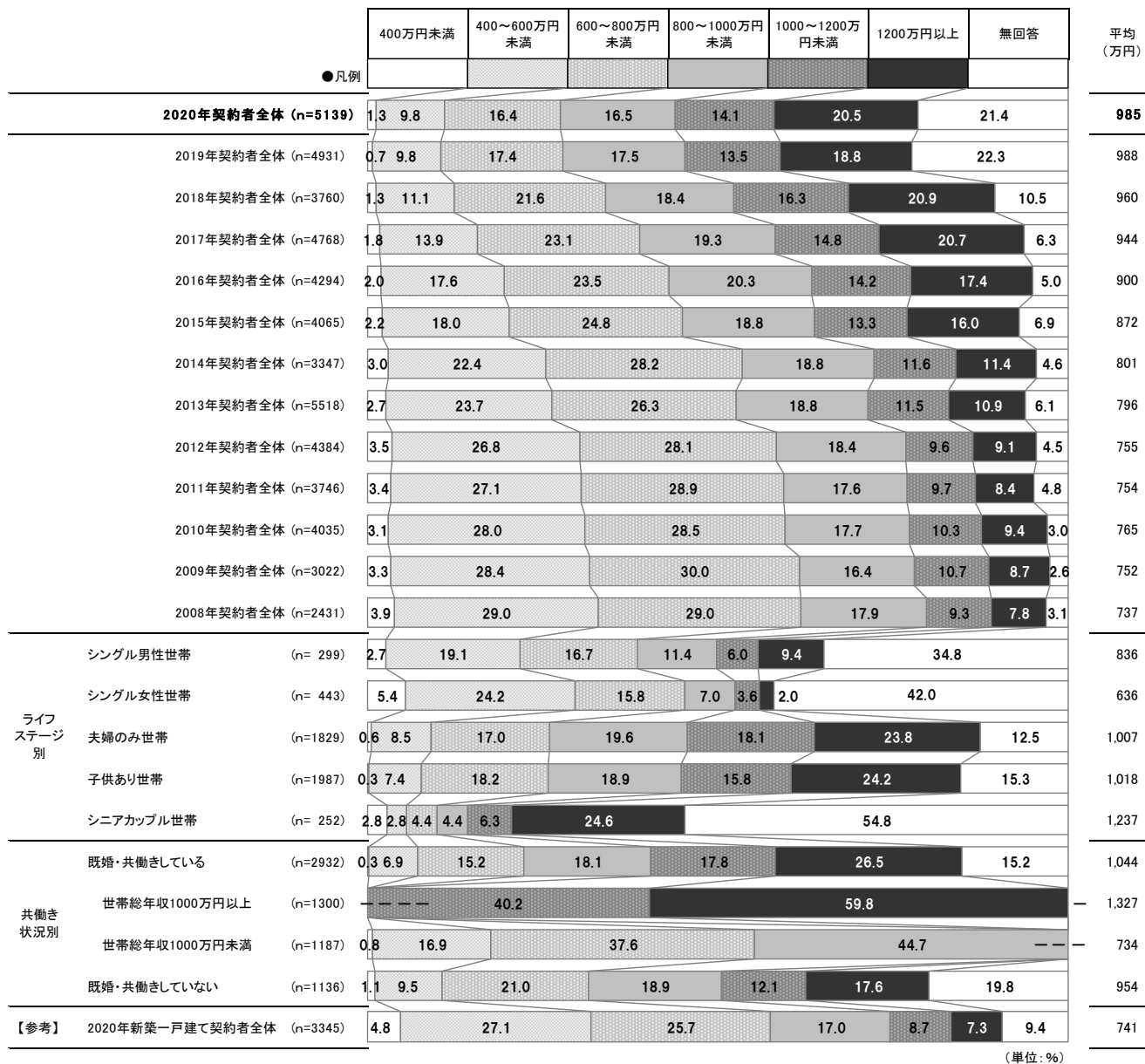
※新築一戸建て契約者については2014年より集計。

4. 契約世帯主の属性 世帯総年収

● 世帯総年収は全体平均で985万円で、2019年とほぼ同じ

- ◇ ライフステージ別にみると、シングル世帯以外は、平均世帯総年収が1,000万円を超えている。
- ◇ 既婚世帯を共働き状況別にみると、共働きをしている方が平均世帯総年収は高く1,044万円、共働きをしていない世帯では954万円である。

■ 世帯総年収（全体／実数回答）



※実数回答形式での世帯総年収は2008年からの設問のため、2008年からのデータ掲載となっている。
 ※調査票では、「Q.住宅ローン返済者全員の合計の税込年収はどのくらいですか」と尋ねている。

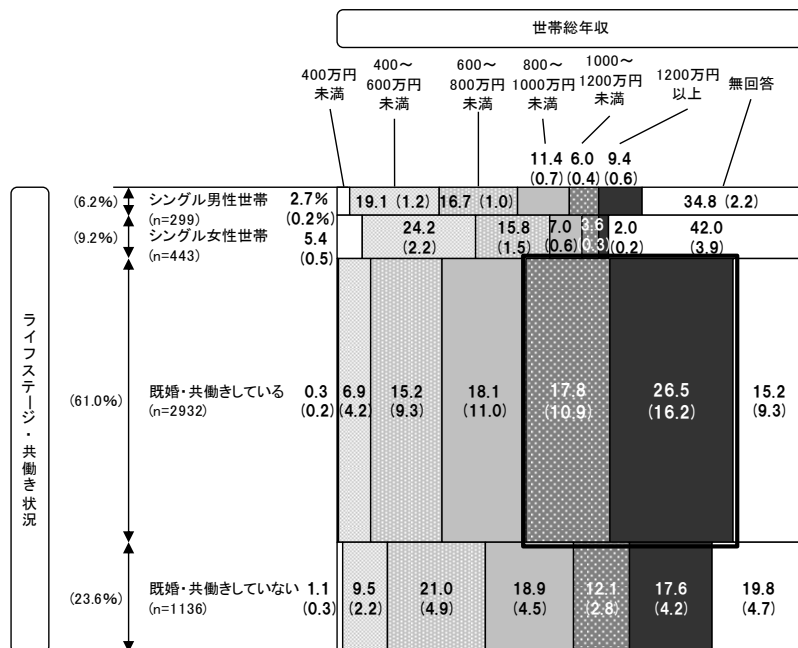
1-01-03-1

5. 契約世帯主の属性 共働き世帯の年収詳細

● 総年収1,000万円以上の既婚共働き世帯が、全体の27%

◇ 総年収1,000万円以上の既婚共働き世帯について、世帯主、配偶者それぞれの年収をみると、世帯主が862万円、配偶者が528万円である。

■ 世帯総年収（ライフステージ分類不能サンプルを除く n4,810／実数回答）

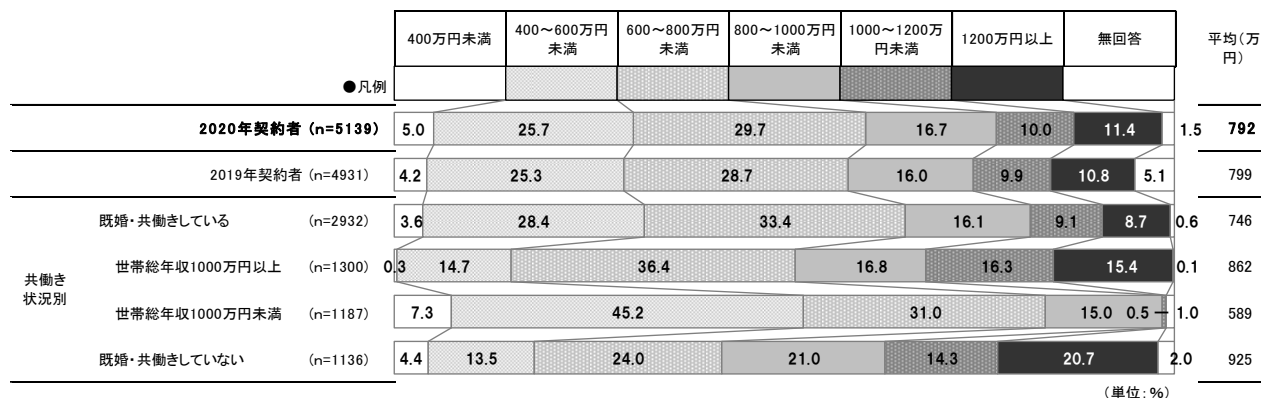


(単位: %)

※調査票では、「Q.住宅ローン返済者全員の合計の税込年収はどのくらいですか」と尋ねている。

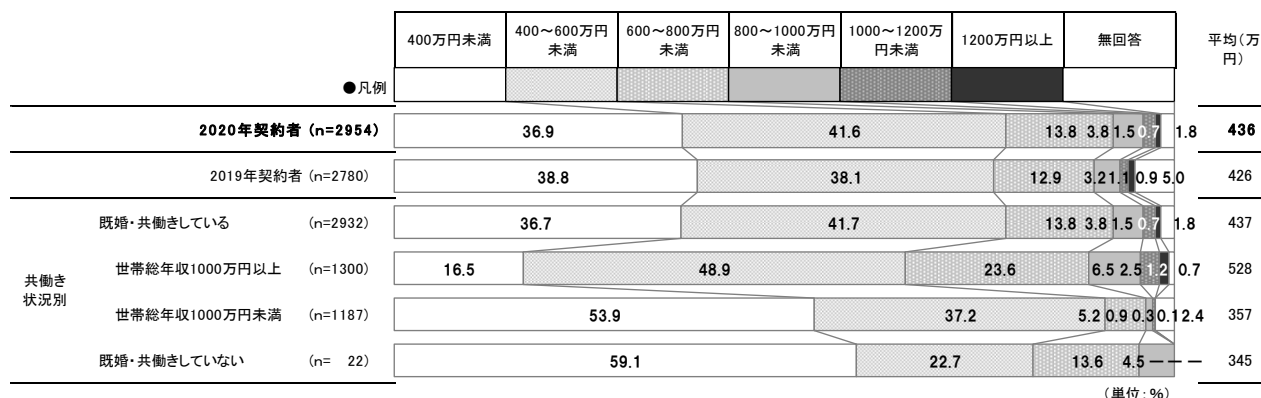
※上記の面積グラフは、()内の%がn4,810に占める割合、()上の%は各ライフステージや共働き状況の中での割合を示す。

■ 世帯主年収（全体／実数回答）



(単位: %)

■ 配偶者年収（既婚世帯&配偶者が働いている／実数回答）



(単位: %)

● 東京23区の購入割合は39%で、2019年とほぼ同じ

- ◇ 購入した物件の所在地では、「東京23区」が最も多く39%。次いで、「神奈川県」が21%。2019年と比べて、「神奈川県」と「埼玉県」が減少、「東京都下」と「千葉県」が増加した。
- ◇ ライフステージ別にみると、「東京23区」の割合がシングル男女世帯では半数前後である。
- ◇ 既婚世帯を共働き状況別にみると、共働きをしている方が「東京23区」の割合がやや高い。さらに、共働き世帯を総年収別にみると、総年収1,000万円以上の世帯の方が「東京23区」の割合が高く、50%である。

■ 購入物件所在地(全体／単一回答)

		東京23区	東京都下	神奈川県	埼玉県	千葉県
● 凡例						
2020年契約者全体 (n=5139)		39.0		12.5	20.6	10.8
2019年契約者全体 (n=4931)		38.6		8.3	26.3	15.3
2018年契約者全体 (n=3760)		42.5		11.9	23.5	10.9
2017年契約者全体 (n=4768)		43.2		13.4	20.0	13.5
2016年契約者全体 (n=4294)		40.3		13.9	22.3	12.3
2015年契約者全体 (n=4065)		47.9		11.9	17.3	12.1
2014年契約者全体 (n=3347)		37.6		9.5	25.1	14.7
2013年契約者全体 (n=5518)		41.9		11.0	22.0	14.0
2012年契約者全体 (n=4384)		38.9		10.9	24.6	15.3
2011年契約者全体 (n=3746)		38.2		9.5	26.4	15.5
2010年契約者全体 (n=4035)		36.2		9.1	26.8	14.9
2009年契約者全体 (n=3022)		34.0		9.5	24.7	15.7
2008年契約者全体 (n=2429)		25.0	11.2	27.7	15.5	20.7
2007年契約者全体 (n=2845)		24.3	9.9	26.4	16.0	23.4
2006年契約者全体 (n=3536)		36.4		9.7	28.5	10.2
2005年契約者全体 (n=2439)		40.3		11.5	25.9	10.1
2004年契約者全体 (n=3743)		45.7		10.3	25.4	9.0
2003年契約者全体 (n=4616)		36.9		11.2	28.3	12.5
2002年契約者全体 (n=5869)		36.1		11.9	27.4	10.0
2001年契約者全体 (n=6919)		35.3		11.2	29.7	10.1
ライフ ステージ 別	シングル男性世帯 (n= 299)	53.8		8.0	18.4	8.4
	シングル女性世帯 (n= 443)	49.4		12.2	19.2	7.0
	夫婦のみ世帯 (n=1829)	37.7		11.9	22.3	11.8
	子供あり世帯 (n=1987)	34.8		13.5	20.7	11.9
	シニアカップル世帯 (n= 252)	32.5		16.7	19.4	8.3
共働き 状況別	既婚・共働きしている (n=2932)	37.0		12.0	21.7	12.3
	世帯総年収1000万円以上 (n=1300)	49.8		11.5	22.2	7.8
	世帯総年収1000万円未満 (n=1187)	24.9	12.6	21.3	16.6	24.5
	既婚・共働きしていない (n=1136)	33.2	15.7	20.5	9.9	20.7

(単位: %)
1-02-01

		東京23区	東京都下	神奈川県	埼玉県	千葉県	茨城県
● 凡例							
【参考】	2020年新築一戸建て契約者全体 (n=3345)	12.1	24.6	22.1	22.5	18.2	0.6

(単位: %)
1-02-01-1

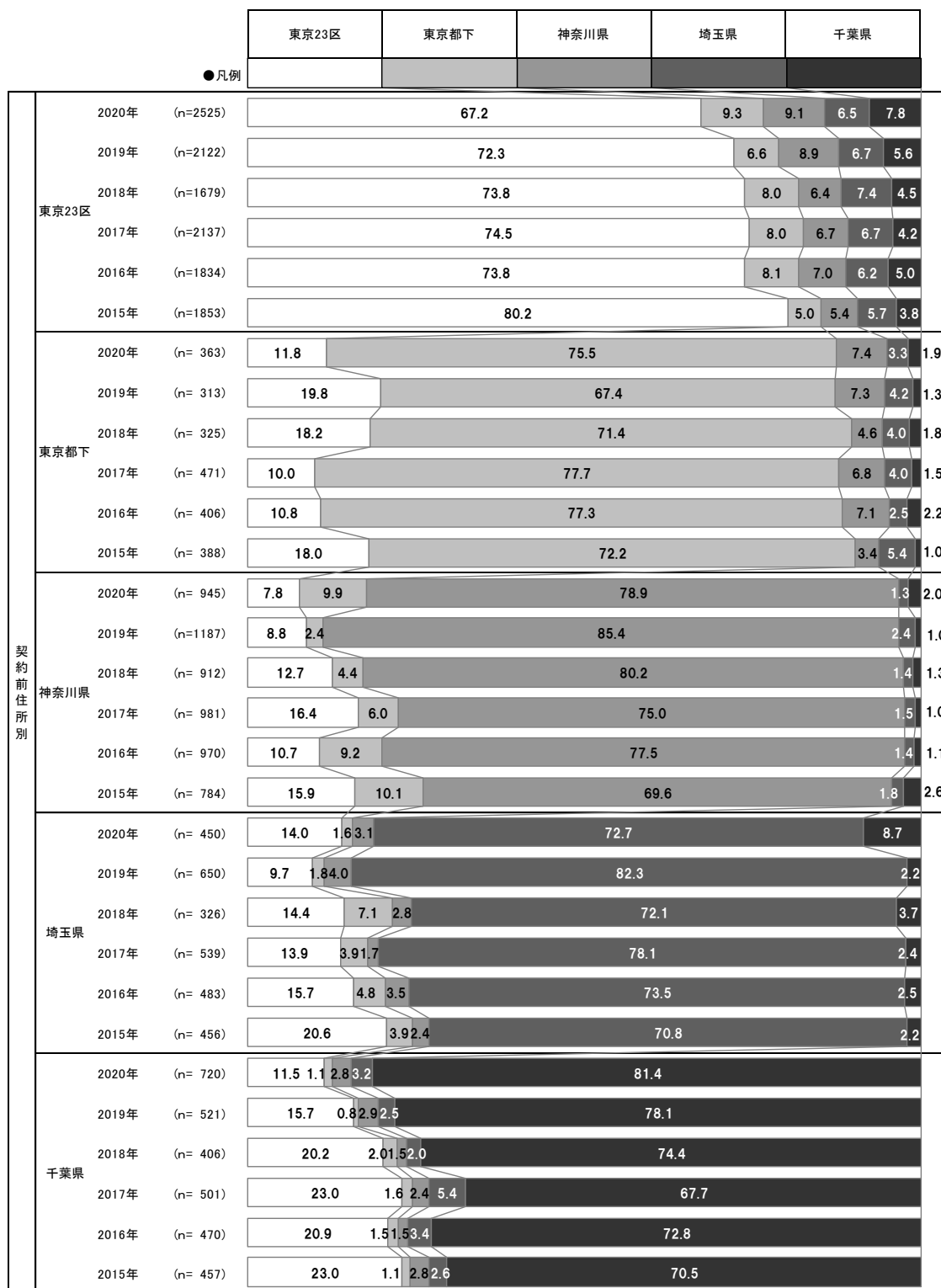
※2008年のデータは、購入物件の所在エリアが東京都だが市区郡不明というサンプルが2サンプルあったため、それを除いた2429サンプルで集計している。
 ※2007年のデータは、購入物件の所在エリアが東京都だが市区郡不明というサンプルが2サンプルあったため、それを除いた2845サンプルで集計している。
 ※2002年のデータは、購入物件の所在エリア無回答が4サンプルがあったため、それを除いた5869サンプルで集計している。
 ※新築一戸建てには、茨城県での契約者も含むため、別グラフで掲載。

7. 購入物件所在地 契約前住所別推移

● 2019年に比べ、東京23区、神奈川県、埼玉県、千葉県の居住者で、他エリアでの購入（流出）が増加

◇ 前住所別に、購入した物件の所在地を見たところ、東京23区の居住者が「東京23区」の物件を購入した割合は67%で、2019年から5ポイント減少、東京23区以外のエリアで購入した割合が、2015年以降で最も高くなった。神奈川県、埼玉県でも、流出（前住所と別のエリアでの購入）が2019年より多くみられるが、東京23区とは異なり、2015年以降で最も高いというほどではない。

■ 契約前住所別 購入物件所在地(直近6年間の推移)



(単位: %)

1-02-01-3

8. 購入価格

● 平均購入価格は5,538万円で、2001年以降で最も高い

- ◇ 購入価格は「6,000万円以上」が33%、「5,000～6,000万円未満」が23%で、5,000万円以上で全体の55%を占める。平均購入価格は5,538万円で、2001年以降で最も高くなった。
- ◇ ライフステージ別では、シニアカップル世帯で「6,000万円以上」が38%を占め、平均5,816万円で最も高い。
- ◇ 既婚・共働き世帯を、総年収別にみると、総年収1,000万円以上の世帯では「6,000万円以上」が58%を占め、平均6,561万円となっている。

■ 購入価格(全体／実数回答)

		2500万円未満	2500～3000万円未満	3000～3500万円未満	3500～4000万円未満	4000～4500万円未満	4500～5000万円未満	5000～6000万円未満	6000万円以上	無回答	平均(万円)
● 凡例											
2020年契約者全体 (n=5139) 0.3		18.6	10.7	12.8	12.2	22.6		32.7		0.8	5,538
2019年契約者全体 (n=4931) 0.2		14.6	10.6	9.7	13.2	26.1		30.9		1.1	5,517
2018年契約者全体 (n=3760) 0.3		7.6	11.5	13.0	13.2	23.1		29.9		0.9	5,402
2017年契約者全体 (n=4768) 0.3		3.6	11.4	11.6	13.4	23.5		30.5		0.8	5,452
2016年契約者全体 (n=4294) 0.4		3.5	8.9	14.1	14.3	13.2	21.6	23.2		0.8	5,081
2015年契約者全体 (n=4065) 0.7		5.1	9.5	12.1	15.3	15.5	19.6	21.4		0.8	4,975
2014年契約者全体 (n=3347) 1.4		8.1	16.4	18.8	17.1	13.5	14.4	9.7		0.6	4,340
2013年契約者全体 (n=5518) 2.0		10.9	19.1	20.9	15.2	11.6	12.2	7.2		0.8	4,168
2012年契約者全体 (n=4384) 2.6		11.5	19.5	21.1	16.6	11.4	11.2	5.5		0.6	4,058
2011年契約者全体 (n=3746) 3.3		11.9	18.1	23.1	15.3	10.8	10.9	6.1		0.6	4,065
2010年契約者全体 (n=4035) 5.2		11.5	17.4	19.0	15.4	11.5	11.4	7.9		0.6	4,103
2009年契約者全体 (n=3022) 7.1		14.2	18.3	18.1	14.7	10.2	10.8	5.8		1.0	3,941
2008年契約者全体 (n=2431) 6.4		14.2	17.2	18.8	13.9	11.4	10.4	5.5		2.2	3,961
2007年契約者全体 (n=2847) 6.0		13.8	19.2	19.6	12.9	9.6	11.6	6.0		1.3	3,987
2006年契約者全体 (n=3536) 4.8		13.2	18.5	20.3	14.9	9.7	12.3	5.2		1.1	4,004
2005年契約者全体 (n=2439) 4.9		15.4	22.1	19.8	13.4	8.9	9.0	5.3		1.2	3,893
2004年契約者全体 (n=3743) 6.1		13.1	21.6	21.9	14.8	9.3	8.1	4.3		0.8	3,859
2003年契約者全体 (n=4616) 5.7		13.8	20.5	21.9	15.2	9.1	8.5	4.6		0.8	3,892
2002年契約者全体 (n=5873) 5.1		13.3	21.2	21.6	14.2	9.5	8.9	3.9		2.3	3,876
2001年契約者全体 (n=6919) 4.7		14.3	21.4	21.4	15.3	9.4	7.8	4.2		1.4	3,871
ライフ ステージ 別	シングル男性世帯 (n=299) 1.7	7.0	11.0	14.0	13.0	10.7	17.7	24.1		0.7	5,024
	シングル女性世帯 (n=443) 1.1	7.4	15.6	20.1	15.1	11.1	15.3	12.6		1.6	4,477
	夫婦のみ世帯 (n=1829) 0.1	5.6	8.5	12.2	13.0	24.8	34.4			0.5	5,573
	子供あり世帯 (n=1987) 0.6	2.9	9.5	13.0	12.2	24.7	36.4			0.9	5,805
	シニアカップル世帯 (n=252) 0.4	4.4	7.5	10.3	11.9	10.3	16.7	38.1		0.4	5,816
共働き 状況別	既婚・共働きしている (n=2932) 0.5	4.5	8.5	12.5	12.5	25.2	35.8			0.5	5,693
	世帯総年収1000万円以上 (n=1300) 0.3	1.2	5.8	7.0	27.5	57.8				0.5	6,561
	世帯総年収1000万円未満 (n=1187) 0.1	0.6	7.8	15.7	18.8	18.4	24.7	13.5		0.6	4,822
	既婚・共働きしていない (n=1136) 0.2	1.5	4.8	10.7	12.8	12.2	21.7	35.0		1.1	5,721
【参考】 2020年新築一戸建て契約者全体 (n=3345) 1.3		14.6	15.2	17.2	14.7	13.1	7.5	10.3	6.2	1.3	3,825

(単位: %)

1-02-11-3

● 平均専有面積は67.3㎡、2001年調査開始以来最も小さい

- ◇ 専有面積は「70～75㎡未満」が最も多く36%。次いで、「60～70㎡未満」が27%。2001年には23%だった70㎡未満の割合が、2020年は45%となり、平均専有面積は67.3㎡で、2001年の調査開始以来、最も小さくなった。
- ◇ ライフステージ別にみると、平均専有面積が最も大きいのは子供あり世帯で、72.3㎡である。

■ 専有面積(全体／実数回答)

		50㎡未満	50～60㎡未満	60～70㎡未満	70～75㎡未満	75～80㎡未満	80～85㎡未満	85～90㎡未満	90～100㎡未満	100㎡以上	無回答	平均(㎡)
●凡例												
2020年契約者全体 (n=5139)		8.4	8.8	27.3	36.1				9.5	4.1	0.9	67.3
ライフ ステージ 別	2019年契約者全体 (n=4931)	7.1	8.8	25.6	37.4				10.3	4.5	1.0	68.2
	2018年契約者全体 (n=3760)	5.6	6.9	23.6	42.5				12.5	4.5	0.8	68.6
	2017年契約者全体 (n=4768)	4.0	5.9	21.6	41.8				15.1	5.5	1.4	70.0
	2016年契約者全体 (n=4294)	4.9	5.6	22.4	37.4				15.2	6.9	1.4	70.2
	2015年契約者全体 (n=4065)	3.4	5.7	22.7	38.8				15.1	6.0	1.9	70.9
	2014年契約者全体 (n=3347)	2.8	6.3	23.7	38.6				15.7	4.8	1.9	70.9
	2013年契約者全体 (n=5518)	4.2	7.2	25.0	33.8				15.1	7.0	1.8	70.3
	2012年契約者全体 (n=4384)	4.3	8.8	23.5	31.2				17.4	7.1	2.2	70.0
	2011年契約者全体 (n=3746)	5.9	8.8	19.7	30.0				16.5	8.5	4.6	70.6
	2010年契約者全体 (n=4035)	6.8	6.7	19.0	26.6				10.3	6.2	3.4	71.5
	2009年契約者全体 (n=3022)	5.3	5.6	15.9	25.2				11.6	7.7	5.7	73.4
	2008年契約者全体 (n=2431)	3.7	4.8	13.5	23.4				14.5	7.7	6.9	75.1
共働き 状況別	2007年契約者全体 (n=2847)	4.0	3.7	15.1	23.6				14.1	7.3	6.8	74.9
	2006年契約者全体 (n=3536)	3.6	4.9	14.6	22.5				14.7	7.7	6.5	75.2
	2005年契約者全体 (n=2439)	4.9	5.2	13.0	18.7				16.4	9.3	7.4	75.2
	2004年契約者全体 (n=3743)	6.3	5.7	12.6	16.4				14.5	9.3	8.3	75.7
	2003年契約者全体 (n=4616)	4.8	5.6	12.2	16.0				14.6	9.9	10.3	76.9
	2002年契約者全体 (n=5873)	3.0	4.8	10.9	14.1				15.5	10.2	11.4	78.6
2001年契約者全体 (n=6919)		2.9	5.0	14.6	17.9				14.0	8.6	8.2	76.2
ライフ ステージ 別	シングル男性世帯 (n=299)			36.8	21.1				19.4	14.0	5.0	54.6
	シングル女性世帯 (n=443)			47.2			17.8		16.9	11.3	1.4	50.6
	夫婦のみ世帯 (n=1829)	2.7	10.2	33.6			37.8		8.6	2.6	1.7	68.4
	子供あり世帯 (n=1987)	0.3	2.8	24.8			44.5		13.2	6.4	3.2	72.3
	シニアカップル世帯 (n=252)	3.2	11.1	30.2			34.9		9.5	4.8	2.8	69.2
共働き 状況別	既婚・共働きしている (n=2932)	1.7	6.8	30.5			41.0		10.8	3.9	1.9	70.0
	世帯総年収1000万円以上 (n=1300)	0.8	7.3	28.2			40.1		14.4	2.2	1.1	70.5
	世帯総年収1000万円未満 (n=1187)	2.2	6.0	34.0			41.3		8.4	3.8	1.6	69.3
	既婚・共働きしていない (n=1136)	1.1	6.3	25.3			40.8		11.2	6.5	4.1	71.3

(単位: %)

1-02-08-1

		80㎡未満	80～85㎡未満	85～90㎡未満	90～95㎡未満	95～100㎡未満	100～105㎡未満	105～110㎡未満	110～120㎡未満	120㎡以上	無回答	平均(㎡)
●凡例												
【参考】 2020年新築一戸建て契約者全体 (n=3345)		4.5	4.3	6.5	11.1	21.7	27.6		11.7	9.0	2.9	99.0

(単位: %)

1-02-08-2

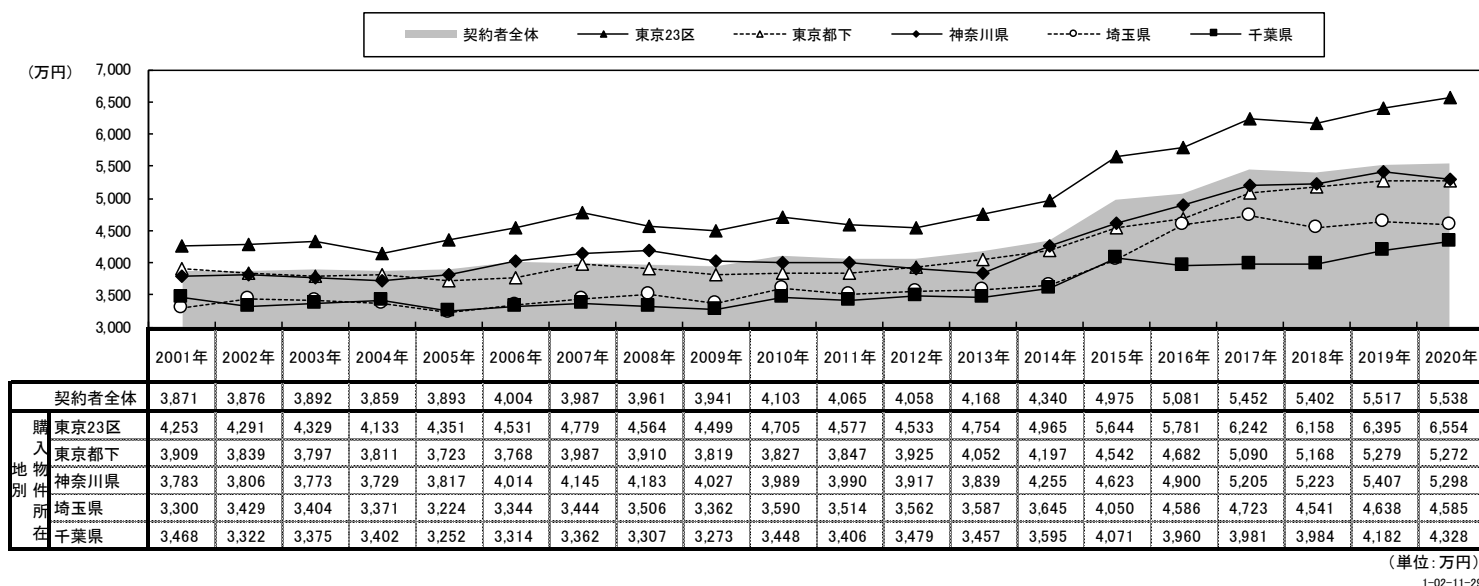
※新築一戸建て契約者のデータは、専有面積の категорияが異なるため、別グラフで掲載。

10. 購入価格と専有面積（購入エリア別）

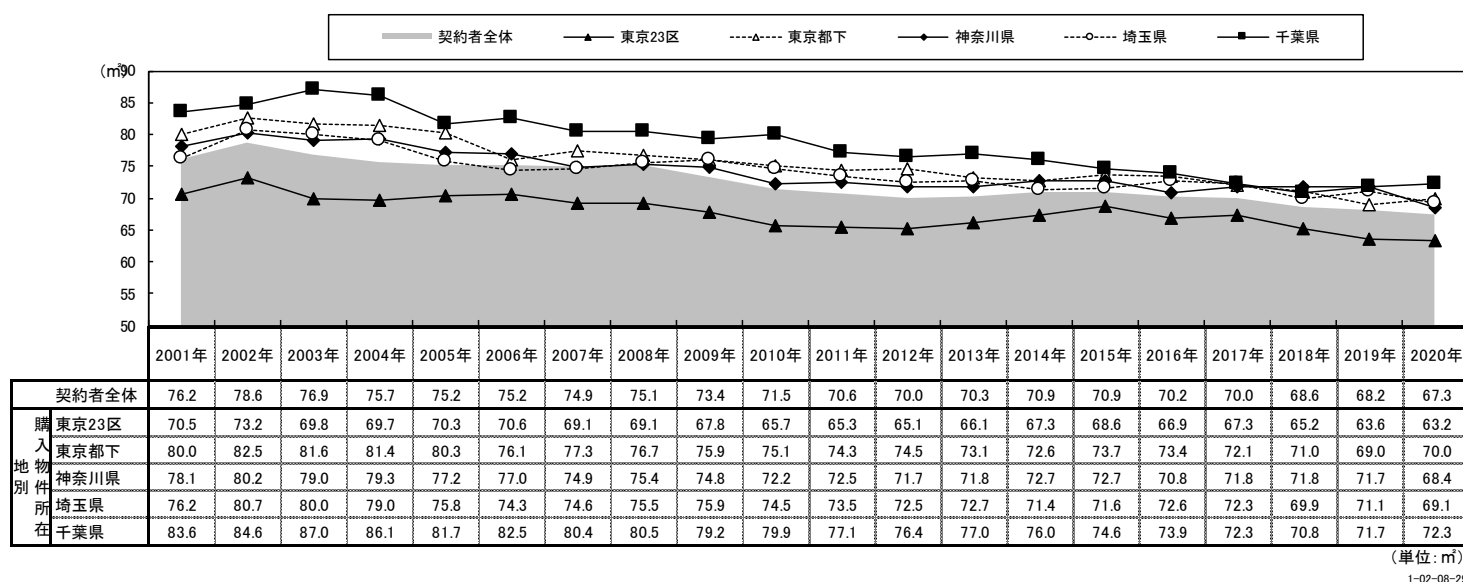
● 2001年調査開始以来、東京23区の価格は最も高く、面積は最も小さく

- ◇ 購入物件所在地別に平均購入価格の推移をみると、東京23区と千葉県で2019年より上昇し、2001年の調査開始以来、最も高くなった。
- ◇ 購入物件所在地別に平均専有面積の推移をみると、東京23区、神奈川県、埼玉県で2019年より低下し、2001年の調査開始以来、最も小さくなった。

■ 購入物件所在地別 平均購入価格の推移



■ 購入物件所在地別 平均専有面積の推移

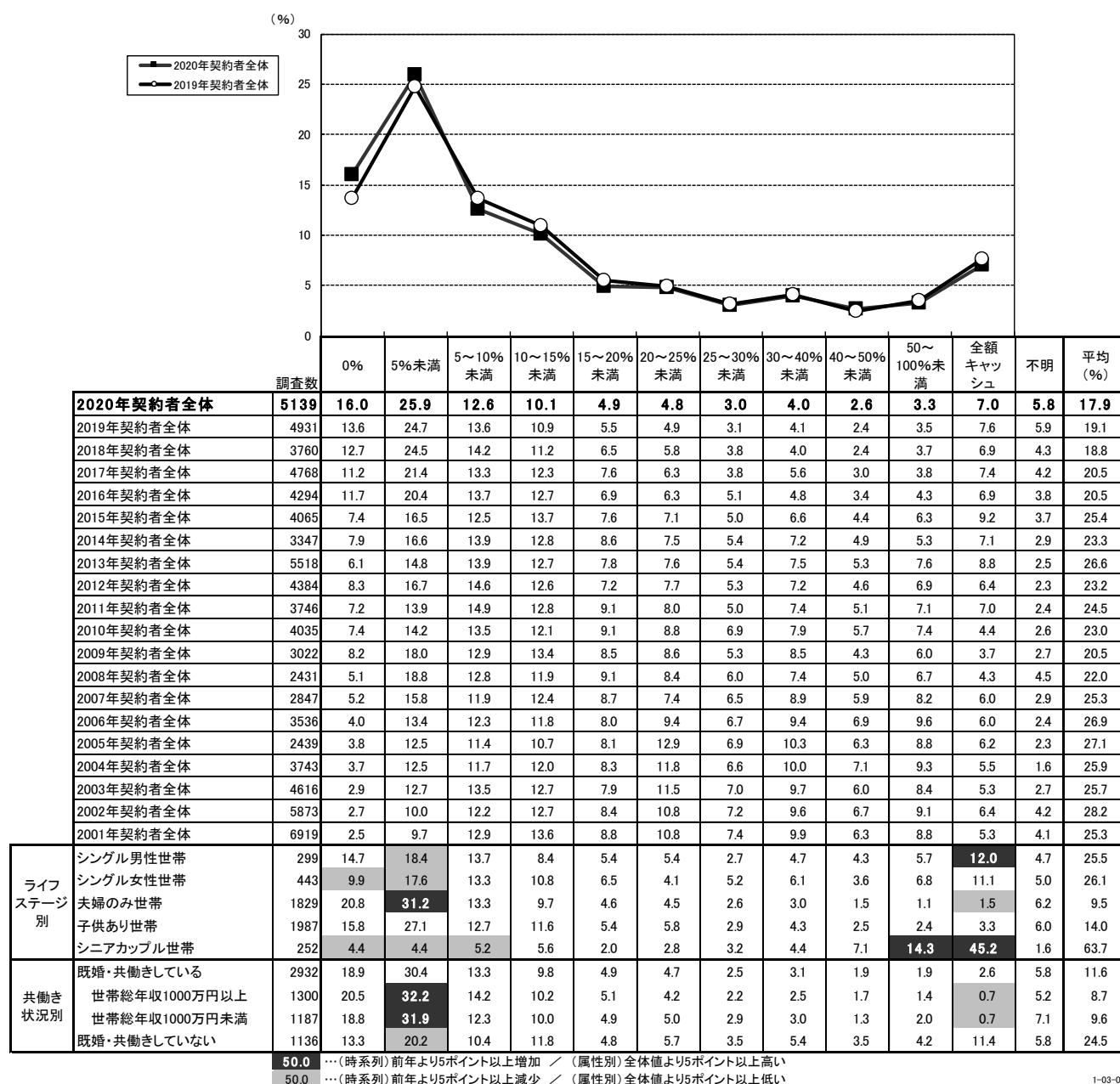


11. 自己資金比率

● 自己資金比率平均17.9%、2001年調査開始以来最も低い

- ◇ 自己資金5%未満の割合が19年よりやや増加、自己資金比率は平均で17.9%となり、2001年調査開始以来最も低くなった。
- ◇ ライフステージ別にみると、自己資金比率の平均が最も高いのはシニアカップル世帯の63.7%、最も低いのは夫婦のみ世帯の9.5%である。
- ◇ 既婚世帯を共働き状況別にみると、共働きをしている方が自己資金比率の平均が低くなっている。

■ 自己資金比率(全体／実数回答)



1-03-02

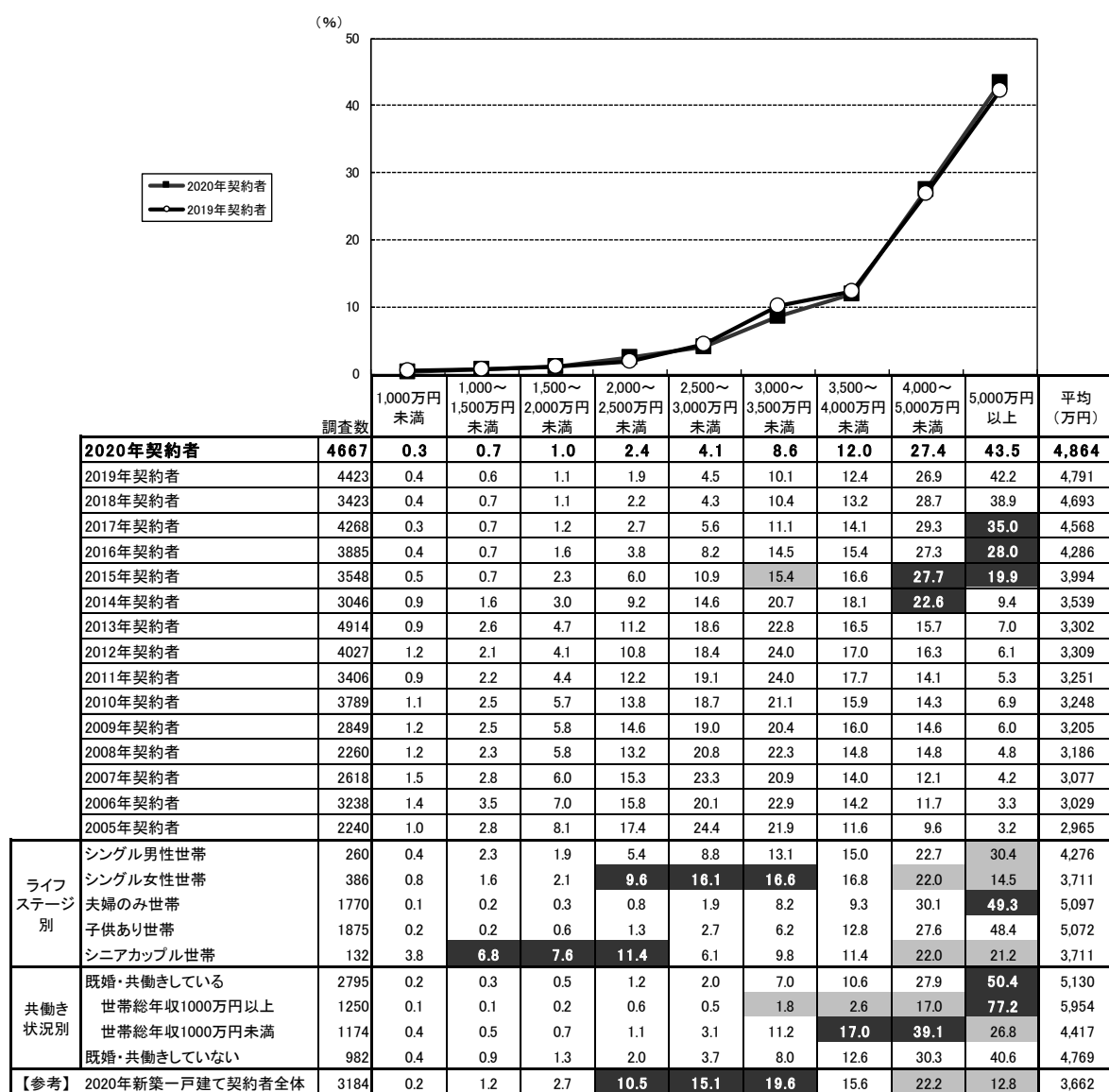
※新築一戸建て契約者については、未集計のため非掲載。

12. ローン借入額

● ローン借入総額は平均4,864万円、2005年以降で最も高い

- ◇ ローン借入総額は「5,000万円以上」が44%を占め、平均4,864万円となり、2005年以降で最も高くなった。
- ◇ ライフステージ別にみると、夫婦のみ世帯、子供あり世帯で、ローン借入総額（平均）が5,000万円を超えている。
- ◇ 既婚世帯を共働き状況別にみると、共働きをしている方がローン借入総額（平均）が高い。さらに、共働き世帯を総年収別にみると、総年収1,000万円以上の世帯では、「5,000万円以上」が77%を占め、平均で5,954万円となっている。

■ ローン借入総額（ローン借入者／実数回答）



50.0 …(時系列) 前年より5ポイント以上増加 / (属性別) 全体値より5ポイント以上高い / (一戸建て) マンションの全体値より5ポイント以上高い
 50.0 …(時系列) 前年より5ポイント以上減少 / (属性別) 全体値より5ポイント以上低い / (一戸建て) マンションの全体値より5ポイント以上低い

1-03-04-1

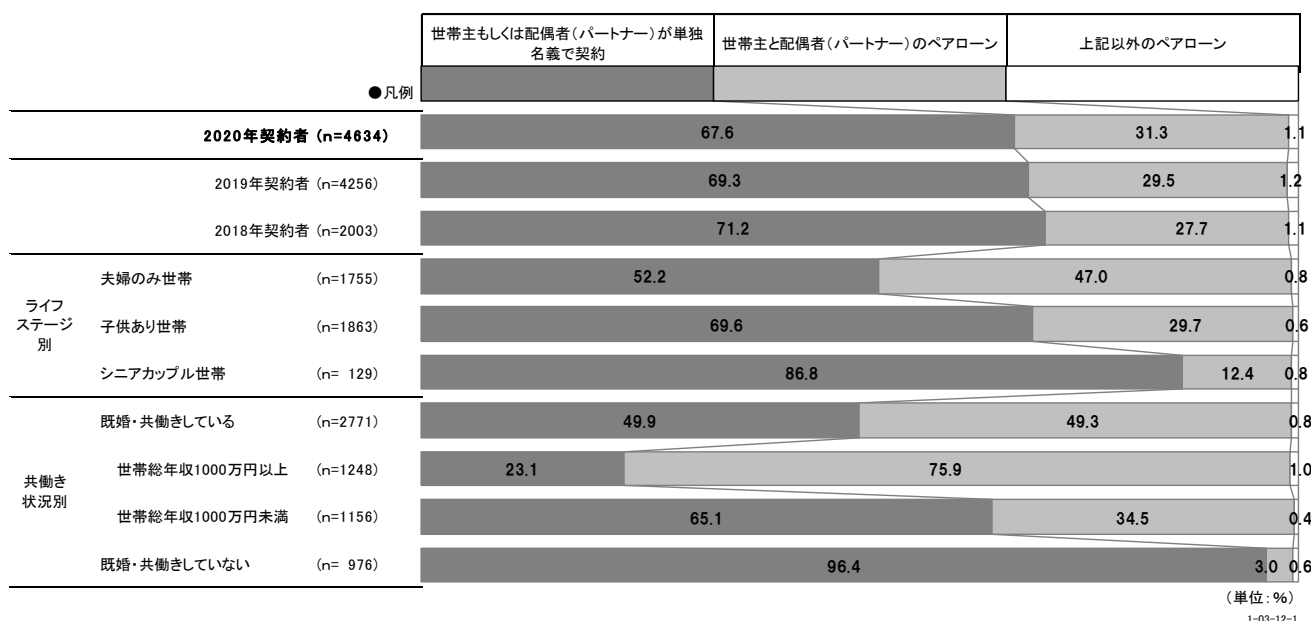
※ローン借入者：ローン借入総額の回答があり、かつ金額が0円でない者

13. ローン契約形態

● 世帯主と配偶者のペアローンが、全体で3割、既婚・共働き世帯では5割

- ◇ 住宅ローンの契約形態は、「単独名義で契約」が68%を占め、「世帯主と配偶者のペアローン」は31%である。2018年以来、「世帯主と配偶者のペアローン」の割合が増加傾向にある。
- ◇ ライフステージ別にみると、夫婦のみ世帯では「世帯主と配偶者のペアローン」が47%を占めている。
- ◇ 既婚世帯を共働き状況別にみると、共働きをしている世帯では「世帯主と配偶者のペアローン」が49%を占めている。さらに、既婚・共働き世帯を、総年収別にみると、総年収1,000万円以上の世帯の方が「世帯主と配偶者のペアローン」の割合が高く、76%を占めている。

■ 住宅ローン契約形態（ローン借入者のみ。住宅ローンは利用していない・無回答を除く／単一回答）



※ローン借入者：ローン借入総額の回答があり、かつ金額が0円でない者

※住宅ローン契約形態は、2018年3月下旬に新設された項目のため、2018年契約者については、旧調査票での回答者は集計から除いている。

※住宅ローン契約形態は、以下のように尋ねているが、

4.住宅ローンは利用していないと回答した者、この質問に無回答だった者も集計から除いている。

Q19 住宅ローンについてお聞きます。

①契約形態は、次のどれにあてはまりますか。（該当するものを1つ選択し、番号に○）

- 1.世帯主もしくは配偶者（パートナー）が単独名義で契約
- 2.世帯主と配偶者（パートナー）のペアローン
- 3.上記以外のペアローン
- 4.住宅ローンは利用していない

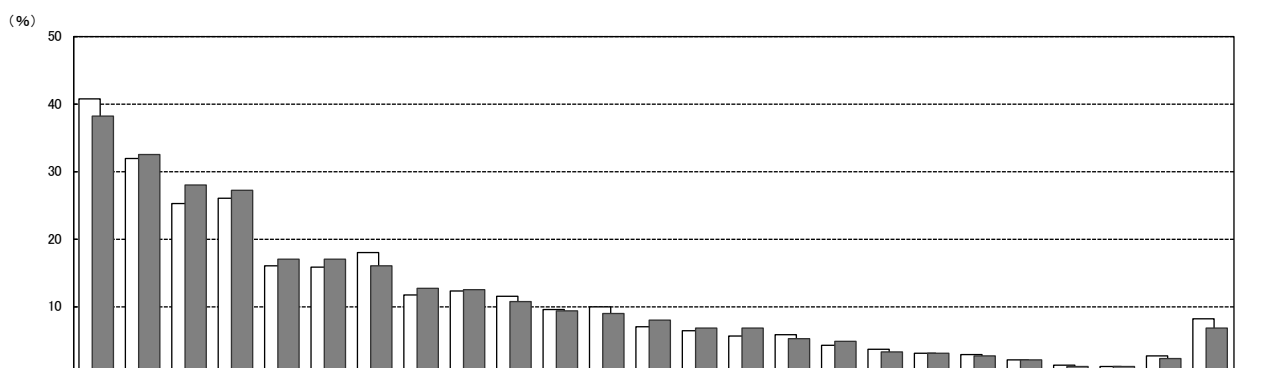
※新築一戸建て契約者については、調査していない。

14. 住まいの購入理由

● 「もっと広い家に住みたかった」という購入理由が、2019年よりやや増加

- ◇ 住まいの購入を思い立った理由は、「子供や家族のため、家を持ちたいと思ったから」が最も多く38%。以下「現在の住居費が高くてもったいないから」（33%）「もっと広い家に住みたかったから」（28%）と続く。
- ◇ 2019年と比べると、「もっと広い家に住みたかった」という理由がやや増加した。2003年以降の変化を見ると、「資産を持ちたい、資産として有利」という理由がこれまでで最も多くなり、2003年の3倍である。
- ◇ 「もっと広い家に住みたかった」という理由は、ライフステージ別では子供あり世帯で多くみられ、既婚世帯の共働き状況別では共働きをしている世帯の方が多くなっている。

■ 購入理由(全体／3つまでの限定回答) ※「2020年契約者全体」で降順ソート



		調査数	持	つ	つ	し	い	と	つ	か	ろ	ほ	つ	え	ら	た	と	必	き	妻	つ	用	時					
2020年契約者全体	5139	38.1	32.5	28.0	27.1	16.9	16.9	18.0	12.6	12.5	10.6	9.4	8.9	7.9	6.8	5.2	4.9	3.3	3.0	2.6	2.0	1.0	1.0	2.3	6.8	1.1		
	2019年契約者全体	4931	40.7	31.8	25.1	25.9	15.9	15.8	18.0	11.6	12.3	11.5	9.6	9.9	7.0	6.3	5.6	5.8	4.2	3.6	3.0	2.8	2.1	1.2	1.0	2.7	8.1	1.0
	2018年契約者全体	3760	41.6	31.5	24.4	23.9	14.3	15.3	22.7	12.8	11.0	10.3	8.5	10.3	7.3	7.4	5.3	6.8	4.7	3.8	3.0	2.7	2.5	1.1	1.3	3.2	8.0	0.6
	2017年契約者全体	4768	42.6	32.1	24.7	22.8	14.3	15.8	25.3	11.0	12.2	10.9	9.5	11.1	6.4	7.1	4.8	6.2	5.1	3.7	3.6	2.3	2.2	0.9	1.0	2.3	8.2	0.6
	2016年契約者全体	4294	43.5	31.8	25.3	19.2	14.3	15.1	34.5	10.6	11.4	9.5	8.2	10.4	6.5	7.1	4.8	5.1	5.2	3.1	4.0	2.8	2.4	1.1	1.3	2.6	8.4	0.6
	2015年契約者全体	4065	43.0	30.7	24.0	22.7	15.2	15.0	26.7	11.1	11.0	11.2	8.0	9.4	8.2	7.7	5.1	5.7	4.8	3.0	3.7	2.8	2.8	0.8	2.4	2.8	8.7	0.7
	2014年契約者全体	3347	43.1	31.6	23.2	19.7	14.4	15.9	22.9	11.7	10.5	12.0	8.9	12.2	9.6	9.4	6.4	6.1	4.8	3.1	4.9	2.9	2.2	1.3	4.3	2.3	8.1	0.3
	2013年契約者全体	5518	39.5	32.5	22.8	17.4	14.4	14.8	27.6	11.8	10.5	11.0	8.6	11.3	13.7	9.1	5.5	4.5	4.3	2.8	4.0	3.0	2.0	1.0	7.3	2.2	9.4	0.5
	2012年契約者全体	4384	40.4	33.6	24.2	15.8	14.9	14.8	28.9	11.3	10.9	9.8	8.0	11.1	16.0	8.4	5.3	4.2	4.6	2.3	4.0	2.7	1.5	1.1	7.3	2.2	9.3	0.3
	2011年契約者全体	3746	39.5	32.3	25.5	15.3	14.4	16.1	32.4	10.3	10.5	9.8	7.2	10.4	16.3	7.1	5.3	4.2	4.6	2.3	3.8	2.9	1.3	1.0	8.5	1.9	8.8	0.2
	2010年契約者全体	4035	37.1	32.7	22.7	13.7	12.1	16.8	39.4	10.4	8.2	8.6	6.6	10.1	19.2	7.5	4.6	3.5	4.3	2.5	4.3	3.2	1.4	0.9	16.9	1.5	6.4	0.2
	2009年契約者全体	3022	37.5	33.3	23.5	11.6	11.1	13.9	35.2	9.3	7.9	7.3	5.3	8.8	20.0	7.0	3.9	3.2	4.0	2.6	3.6	2.4	1.1	1.1	33.9	1.4	6.1	0.2
	2008年契約者全体	2431	42.0	35.0	29.5	16.5	13.6	14.6	14.4	10.9	9.1	11.6	8.8	10.4	7.3	8.5	8.0	4.2	7.1	3.2	5.7	3.0	1.6	1.7	10.0	2.2	9.9	0.2
	2007年契約者全体	2847	41.9	31.0	29.8	16.0	13.3	14.6	25.4	10.3	9.5	10.7	9.0	9.7	9.2	8.1	6.9	4.0	5.6	2.7	5.3	3.6	1.6	1.6	6.0	2.9	8.1	0.7
	2006年契約者全体	3536	35.7	30.6	27.8	14.9	11.6	14.4	35.4	11.0	10.1	9.9	7.7	12.0	9.4	9.2	5.7	3.5	4.6	2.1	4.7	2.6	2.1	1.4	13.9	1.9	8.2	0.3
2005年契約者全体	2439	34.8	31.3	29.7	12.8	12.5	12.1	32.3	9.7	9.8	10.1	7.7	12.2	9.3	8.5	6.1	3.9	5.4	2.1	5.3	3.8	1.8	1.2	16.8	2.3	9.8	0.2	
2004年契約者全体	3743	32.2	31.2	30.2	11.0	12.3	11.5	31.6	10.3	10.6	10.6	7.1	13.4	13.1	9.3	6.1	3.8	5.2	2.5	4.3	3.0	2.7	1.0	19.1	2.4	8.9	0.1	
2003年契約者全体	4616	31.6	30.7	32.4	9.1	11.4	10.7	36.8	10.3	10.8	9.6	6.6	11.7	11.1	9.3	6.7	3.4	6.0	2.7	3.8	4.0	1.9	1.2	21.1	2.3	9.0	0.1	
ライフ ステージ 別	シングル世帯	742	2.7	31.8	19.1	40.8	31.1	0.7	19.8	19.4	12.0	12.0	13.1	11.6	6.5	4.3	11.9	0.3	3.6	3.2	4.0	7.8	3.4	2.0	1.1	3.1	10.6	1.8
	夫婦のみ世帯	1829	25.4	41.4	27.4	30.0	13.4	40.6	18.3	15.1	8.6	7.9	6.5	8.4	10.4	5.0	6.9	2.0	4.4	2.8	3.0	1.3	0.7	1.2	1.0	2.2	4.6	0.4
	子供あり世帯	1987	67.5	27.8	35.6	19.5	12.0	3.8	13.4	9.7	13.4	10.9	7.9	8.0	6.5	9.6	5.1	10.9	5.3	4.0	2.3	1.5	1.5	0.5	1.0	2.1	5.2	0.9
	シニアカップル世帯	252	5.6	16.7	9.1	15.5	40.9	2.8	13.5	3.2	29.8	21.8	26.6	10.3	6.0	8.7	5.6	—	8.7	2.4	3.6	3.2	6.0	—	1.2	2.0	19.0	3.2
共働き 状況別	既婚・共働きしている	2932	43.5	36.4	32.4	25.5	12.9	24.7	16.5	12.3	10.7	8.8	7.9	8.3	8.5	5.8	6.0	5.7	4.6	2.7	2.6	1.2	1.0	0.8	0.9	1.9	5.0	0.6
	世帯総年収1000万円以上	1300	40.5	36.3	35.3	27.3	9.2	24.3	17.9	12.8	11.2	7.5	8.5	9.8	10.2	6.5	4.2	6.1	4.8	2.3	1.6	1.0	0.6	0.6	0.7	2.0	4.8	0.5
	世帯総年収1000万円未満	1187	48.9	38.2	31.7	23.2	14.7	27.0	16.5	12.6	8.9	9.0	5.7	6.2	7.9	4.2	7.8	5.1	4.7	2.8	3.9	1.0	0.9	1.0	0.9	1.9	4.6	0.8
	既婚・共働きしていない	1136	48.0	25.1	25.0	20.0	18.4	8.8	13.3	10.0	16.4	13.9	9.6	8.3	7.4	11.8	5.9	7.6	6.4	4.9	3.0	2.3	2.6	0.9	1.4	2.7	7.8	1.3
【参考】	2020年新築一戸建て契約者全体	3345	59.8	26.6	37.1	11.0	15.2	14.1	11.1	7.3	4.8	11.4	2.6	3.2	5.1	5.5	26.7	3.4	3.1	3.7	4.3	3.7	1.3	2.4	7.2	2.3	5.9	0.3

50.0 …(時系列)前年より5ポイント以上増加 / (属性別)全体値より5ポイント以上高い / (一戸建て)マンションの全体値より5ポイント以上高い
50.0 …(時系列)前年より5ポイント以上減少 / (属性別)全体値より5ポイント以上低い / (一戸建て)マンションの全体値より5ポイント以上低い

● 居住空間のゆとりを求めた割合が、2019年よりやや増加

- ◇ 住まい探しにあたって求めた暮らし方のイメージで最も多いのは、「日々の生活がしやすい」で36%。以下、「仕事や通勤に便利」（35%）、「居住空間にゆとりがある」「子育て・教育がしやすい」（ともに33%）と続く。2019年と比べると、「居住空間にゆとりがある」がやや増加、「日当たりのよい生活ができる」はやや減少した。
- ◇ 2010年以降の変化をみると、「日々の生活がしやすい」「買い物に便利」といった生活利便への期待が増えている。
- ◇ 既婚・共働き世帯を、総年収別にみると、総年収1,000万円以上の世帯の方が、「共働きがしやすい」ことへの期待が高くなっている。

■暮らし方のイメージ(全体／5つまでの限定回答) ※50項目中、2020年の上位30項目を表示

[illegible]

	調査数	0～1件	2～3件	4～5件	6～8件	9～10件	11～20件	21件以上	無回答	平均(件)
2020年契約者全体	5139	28.8	42.5	18.7	5.9	2.3	0.8	0.1	1.0	2.9
1～3月契約者	1900	29.4	42.9	18.4	4.7	2.9	0.8	0.2	0.6	3.0
4～6月契約者	563	35.9	41.2	15.8	3.7	1.1	0.5	—	1.8	2.5
7～9月契約者	1730	27.2	42.3	19.4	7.4	1.8	0.8	—	1.2	3.0
10～12月契約者	946	26.3	42.7	19.6	7.0	2.6	0.8	0.1	0.8	3.1
	50.0	…全体値より5ポイント以上高い								
	50.0	…全体値より5ポイント以上低い								

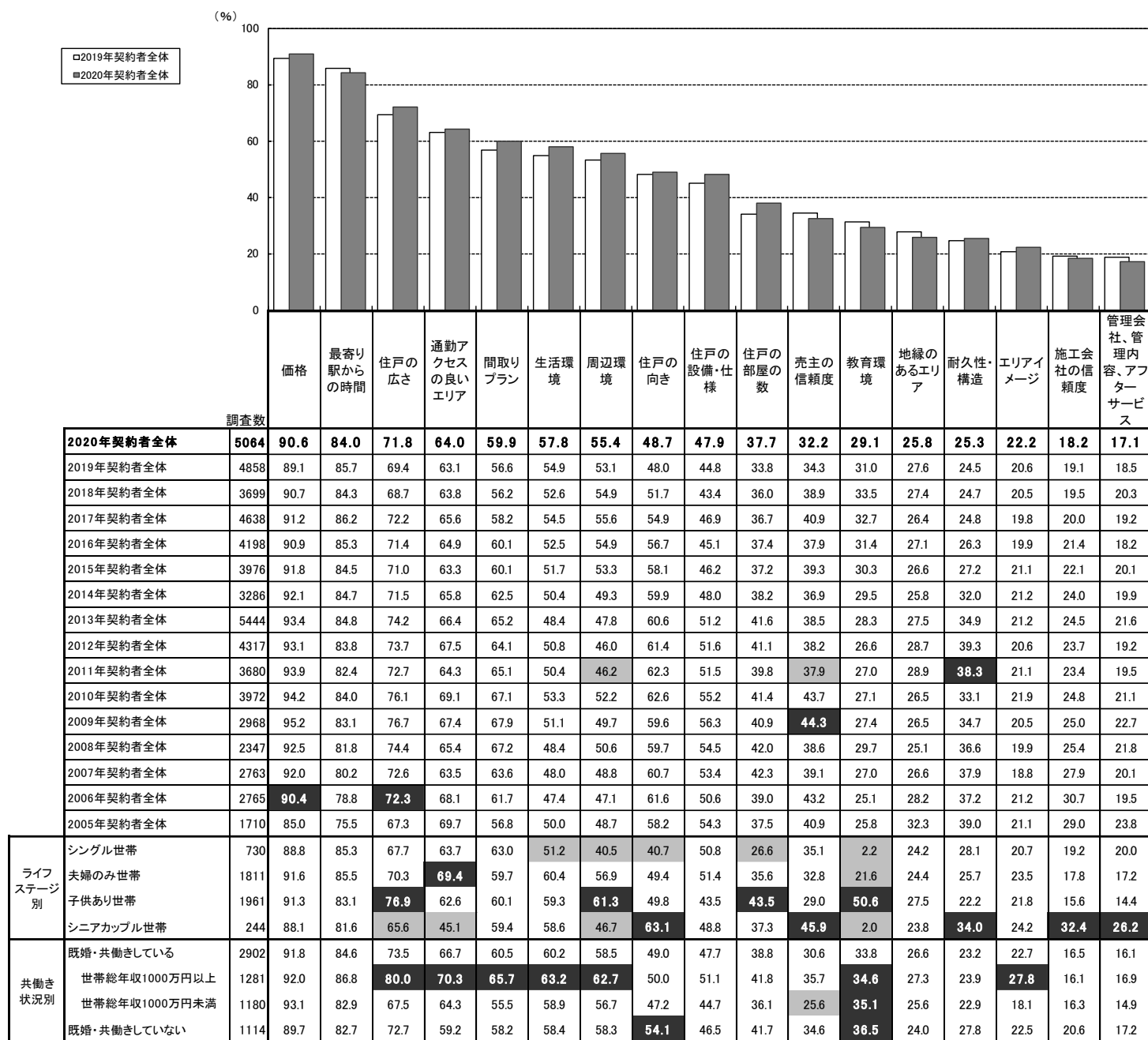
1-05-05

16. 重視項目

● 間取りプラン、住戸の設備・仕様や部屋数、生活環境の重視度が、2019年よりやや上昇

- ◇ 物件を検討するうえで重視した項目は「価格」が91%で最も高い。以下、「最寄り駅からの時間」(84%)、「住戸の広さ」(72%)などが続く。2019年と比べ、「間取りプラン」「生活環境」「住戸の設備・仕様」「住戸の部屋の数」を重視した割合が、やや増加した。
- ◇ 2005年と比べて、重視度が5ポイント以上上がっているのは「価格」「最寄り駅からの時間」「生活環境」「周辺環境」、下がっているのは「通勤アクセスの良いエリア」「住戸の向き」「住戸の設備・仕様」「売主の信頼度」「地縁のあるエリア」「耐久性・構造」「施工会社の信頼度」「管理会社、管理内容、アフターサービス」である。

■ 購入重視項目(全体、無回答を除く／複数回答) ※「2020年契約者全体」で降順ソート



50.0 …(時系列)前年より5ポイント以上増加 / (属性別)全体値より5ポイント以上高い
50.0 …(時系列)前年より5ポイント以上減少 / (属性別)全体値より5ポイント以上低い

※購入重視項目は2006年まで二次調査項目のため、2006年契約者までは二次調査回答者ベースとなっている。※新築一戸建て契約者では選択肢が異なるため、未掲載。

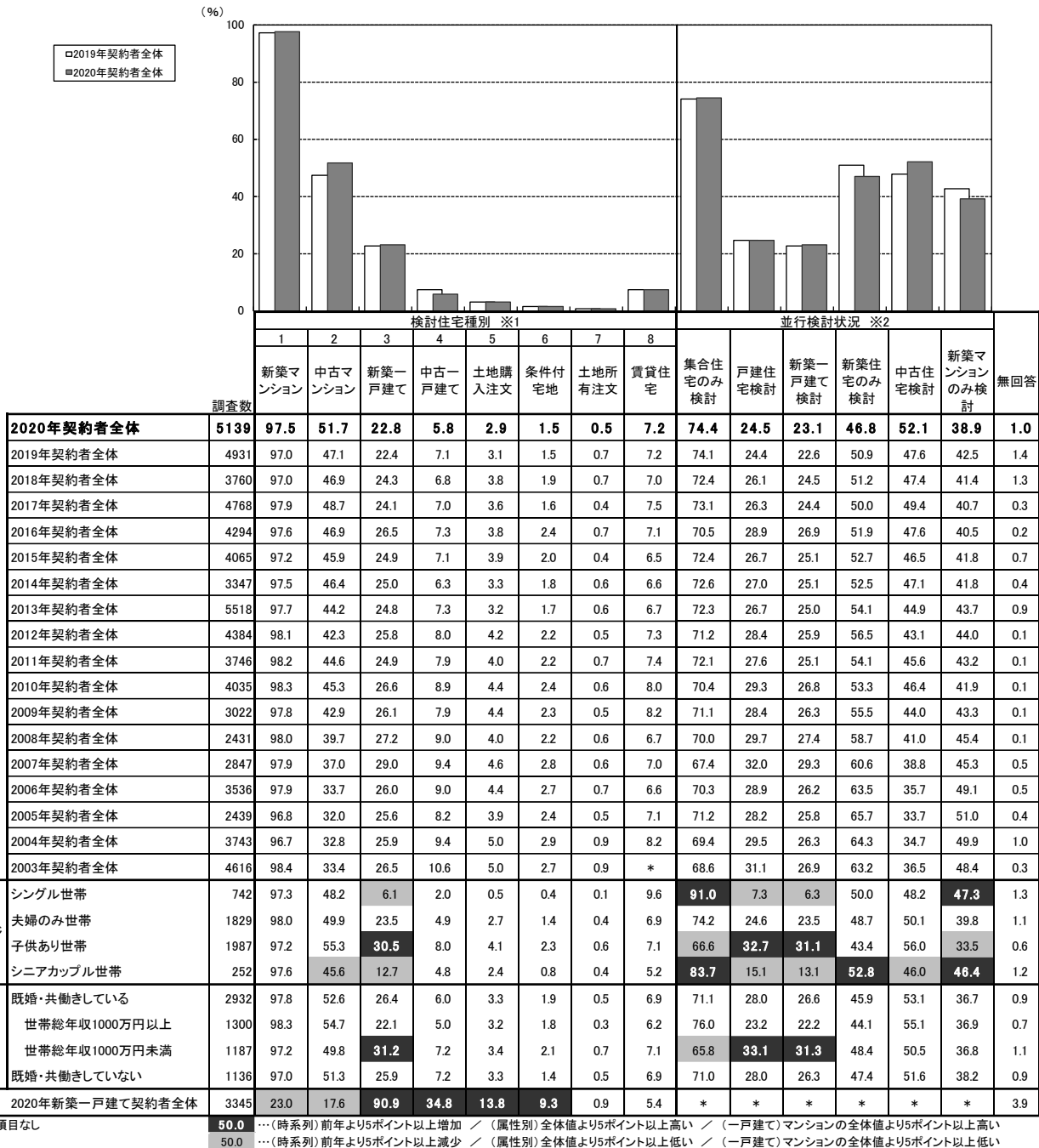
17. 検討住宅種別

● 中古マンションとの並行検討者は全体の52% 2003年以降で初めて半数を超える

◇ 具体的に検討した住宅の種別は、新築マンション以外では「中古マンション」が最も多く52%。2019年より増加し、2003年以降で初めて半数を超えた。「戸建住宅検討」は25%で、2019年とほぼ同じである。

◇ ライフステージ別にみると、子供あり世帯で、「新築一戸建て」を検討する割合が全体と比べて高い。

■ 具体的に検討した住宅種別(全体／複数回答)



※1 <検討住宅種別について>

新築マンション契約者が、具体的に検討した住宅を種別ごとに集計
(選択肢の文言に関する補足)

5「土地購入注文」	建築条件なしの土地を購入して注文建築
6「条件付宅地」	建築条件付の土地*を購入して注文建築(*施工会社があらかじめ決まっている土地)
7「土地所有注文」	所有している土地に注文建築
8「賃貸住宅」	2004年契約者から選択肢を追加

※2 <並行検討状況について>

新築マンション契約者が、並行して検討した住宅の分野ごとに集計

(分野に関する補足: 賃貸住宅を除く検討住宅種別(1~7)の選択状況によって、下記の通り分類)

集合住宅のみ検討	1または2に○、3~7のいずれも×
戸建住宅検討	3~7のいずれかに○
新築一戸建て検討	3または6に○
新築住宅のみ検討	1、3、5、6、7のいずれかに○、2、4のいずれも×
中古住宅検討	2または4に○
新築マンションのみ検討	1のみに○、2~7のいずれも×